



沖縄県宮古島初記録のホウセキハタモドキ

鵜川貴也¹・野村玲偉²・宮崎佑介²

Author & Article Info

¹ 近畿大学農学部水産学科（奈良市）
ukawa0135@nara.kindai.ac.jp² 近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻（奈良市）
RN: nomura.kindai.nara@gmail.com (corresponding author)
YM: miyazaki@nara.kindai.ac.jpReceived 27 January 2025
Revised 04 February 2025
Accepted 05 February 2025
Published 06 February 2025
DOI 10.34583/ichthy.52.0_9Takaya Ukawa, Rei Nomura and Yusuke Miyazaki. 2025. First record of *Epinephelus miliaris* (Valenciennes, 1830) from Miyako-jima island, Okinawa Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 52: 9–12.

Abstract

A single specimen (263.1 mm in standard length) of *Epinephelus miliaris* (Valenciennes, 1830), a species of Epinephelidae, was collected from off Miyako-jima island, Ryukyu Islands, Japan. This species is widely distributed in the Indo-West Pacific region, ranging from east Africa to Samoa and southern Japan. In Japanese waters, the species has previously been recorded from Okinawa-jima, Ishigaki-jima, and Iriomote-jima islands in Okinawa Prefecture. The present specimen represents the first record of the species from Miyako-jima island, and fills the gap between Ishigaki-jima and Okinawa-jima islands.

ハタ科アカハタ属 *Epinephelus* Bloch, 1793 はハタ科魚類の多くの種が属する分類群であり、日本からは44種が記録されている（中村・本村, 2022）。このうち、ホウセキハタモドキ *Epinephelus miliaris* (Valenciennes, 1830) はこれまで日本列島においては沖縄島、石垣島、および西表島からのみ報告されている（益田ほか, 1975; Katayama, 1987; 瀬能, 2013; 中村ほか, 2020）。また、本種は環境省版海洋生物レッドリストにおいて絶滅危惧IB類に選定されている（環境省, 2017）。

第1著者は、2023年12月2日に宮古島南西沖の水深180 m地点でホウセキハタモドキに同定される1個体を釣獲した。宮古島は本種の分布の空白地帯であったため、本稿では標本に基づき本種の宮古島からの初記録として報告する。

材料と方法

計数・計測方法はRandall and Heemstra (1991)にしたがった。標準体長は体長またはSLと表記し、体各部の計測はデジタルノギスとノギスを用いて0.1 mmの精度で行い、計測値は標準体長に対する百分率(%)で示した。記載標本は、左体側の頭部の一部が破損したため、右体側を撮影した。しかし、破損の範囲は狭小であったため、計数・計測は標本の左体側で行った。記載標本は10%中性ホルマリン溶液で固定した後、70%エタノール溶液に置換した。生鮮時の体色の記載は固定前に撮影されたカラー写真に基づいて記載した。本報告に用いた標本は近畿大学農学部(KUN)に登録・保管されている。

Epinephelus miliaris (Valenciennes, 1830)

ホウセキハタモドキ

(Figs. 1, 2)

標本 KUN-P 66426, 263.1 mm SL, 宮古島南西沖, 水深180 m, 2023年12月2日, 釣り, 鵜川貴也。

記載 体各部の体長に対する割合(%)はTable 1に示した。体は前後方向に伸長した楕円形。吻はやや尖り、吻長は眼径よりやや長い。鼻孔は2対で、前鼻孔と後鼻孔は近接し眼の直前に位置する。前鼻孔には皮弁があり。後鼻孔にはない。頭部背面の眼の上方に凹みはない。口は端位で下顎は上顎より突出する。上顎後端は眼の後縁直下より前方に位置する。上下の両唇は厚い。眼窩は正円形で瞳孔はやや前後方向に長い楕円形を呈する。前鰓蓋骨後縁は細かい棘が並び鋸歯状で、角の棘は他の棘より大きい。総排泄孔は体の中央よりやや後方に位置し、臀鰭起部直前に開孔する。体側は櫛鱗に被われるが、体側背部と腹部は円鱗に被われる。両唇と眼、両鼻孔周辺、鰓膜、および胸鰭腋部は無鱗。側線は完全で、主鰓蓋骨上端から尾鰭基底部にかけて入る。背鰭起部は胸鰭基底部上端より僅かに前方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より後方にそれぞれ位置する。背鰭各棘間の鰓膜は切れ込み、背鰭軟条部の外縁は



Fig. 1. Live condition of *Epinephelus miliaris* from Miyako-jima Island, Okinawa Prefecture, Japan (KUN-P 66426, captured at 180 m depth). Photo by T. Ukawa.



Fig. 2. Fresh specimen of *Epinephelus miliaris* (KUN-P 66426, 263.1 mm SL). Photo by R. Nomura.

丸みを帯びる。背鰭第1棘から第9棘には先端直後の鰭膜から伸長する皮弁があり、背鰭第1棘から背鰭第5棘の皮弁は丸みを帯びており、背鰭第6棘から背鰭第9棘の皮弁は先が鋭い。背鰭第10棘から背鰭第11棘の皮弁は痕跡的で小さい。背鰭棘は第1棘から第3棘にかけて徐々に長くなり、第3棘から第11棘にかけて徐々に短くなる。胸鰭基底部上端は背鰭基部より僅かに後方、胸鰭基底部下端は腹鰭基部直上付近にそれぞれ位置する。胸鰭後縁は丸みを帯びる。腹鰭起部は背鰭起部直下より明確に後方に位置す

る。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部直下付近、臀鰭基底後端は背鰭第12軟条起部直下付近にそれぞれ位置する。臀鰭第1棘および臀鰭第2棘の鰭膜からわずかに伸長する皮弁は丸みを帯びる。尾鰭は後縁が丸みを帯びる截形。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 2) 一頭部、体側に瞳孔より小さい茶褐色斑が密在し、小斑の間の砂色部分と網目模様を形成する。背鰭前半部は体側背部よりも大きな黄褐色斑が散在し、背鰭後半部、腹鰭、臀鰭、尾鰭には、瞳孔大より大きい黄色く縁取られた赤褐色斑が散在する。胸鰭に

は瞳孔よりも大きい赤褐色斑が散在する。体側には 5 本の濃い茶褐色の横帯が走り、このうち前から 1–2 本目の（第 1–2）横帯は腹面まで達しない。第 1 横帯は背部では前鰓蓋骨後縁の直上付近から背鰭第 1 棘基部にかけて広がり、主鰓蓋骨外縁の鰓膜上端部にかけて走る。第 2 横帯は背部では背鰭第 4 棘基部から背鰭第 7 棘基部にかけて広がり、前方に傾きながら胸鰭基底上端まで走る。第 3 横帯は背部では背鰭第 10 棘基部から背鰭第 1 軟条基部にかけて広がり、前方に傾きながら腹部まで走る。第 4 横帯は背部では背鰭第 6 軟条基部から背鰭第 16 軟条基部にかけて広がり、腹部は臀鰭基底部前端から背鰭第 16 軟条基部直下まで走

る。第 5 横帯は尾柄部に走る。背鰭第 1–9 棘の先端直後の鰭膜から伸長する皮弁は白色で、第 10–11 背鰭棘の先端直後の鰭膜は白く縁取られる。臀鰭第 1–2 棘の鰭膜からわずかに伸長する皮弁および背鰭第 3 棘の鰭膜の縁も白色で、臀鰭軟条部も白く縁取られる。尾鰭後端も白色に縁取られる。

同定 本標本は背鰭鰭条が XI, 17, 側線鱗が 49 枚、縦列鱗が 93 枚、総鰓耙が 23 本、尾鰭が円い、背鰭第 3 棘が最長、頭部と体側に眼径より小さく網目模様を形成する黄褐色の斑点が密在する、および各鰭に体側の斑点より大きい赤褐色斑を有するなどの特徴により、Randall and Heemstra (1991), Cabanban and Sadovy de Mitcheson (2011), および瀬能 (2013) の報告したハウセキハタモドキ *Epinephelus miliaris* の標徴と一致したため、本種に同定された。

分布 本種は東アフリカから日本とサモアにかけてのインド・太平洋の島嶼域に分布し (Cabanban and Sadovy de Mitcheson, 2011), 日本国内からは沖縄島, 石垣島, および西表島から記録されていたが (益田ほか, 1975; Katayama, 1978 瀬能, 2013; 中村ほか, 2020), 本研究によって分布の空白域であった宮古島からも本種が記録された。

備考 Cabanban and Sadovy de Mitcheson (2011) で言及された本種の特徴である頭部背面の眼の上方の凹みは、記載標本（体長 263.1 mm）からは確認されなかった。記載標本よりも大型である Katayama (1978) の 1 個体 (Katayama's Fish Collection No. 5700, 体長 396 mm) のスケッチ (fig. 4) や Randall and Heemstra (1991) の体長 300 mm のスケッチ (fig. 107), 中村ほか (2020) で報告された 1 個体 (KAUM-I. 131314, 体長 340.6 mm) からは頭部に凹みが確認されたこと, Randall and Heemstra (1991) で示された大型個体 (RUSI 21169, 体長 430 mm) は前述の個体より頭部の凹みが大きいこと, Heemstra and Randall (1993) の体長 28 mm の個体においては頭部の凹みが図示されていないことから、頭部背面には成長に伴い凹みが形成される可能性があると考えられる。

記載標本からは背鰭第 1–11 棘および臀鰭第 1–2 棘の先端直後の鰭膜から伸長する白い皮弁が確認されたが (Figs. 1, 2), 背鰭第 10 棘および第 11 棘の皮弁は非常に小さく痕跡的であった。益田ほか (1975) は本種の背鰭各棘の先端後方の鰭膜には三角形の白い皮弁があることを指摘したが、臀鰭棘先端後方の皮弁に対しての言及はされていない。Katayama (1978) では背鰭の皮弁に関する言及はないものの、図示されている沖縄県石垣島産の 1 個体 (Katayama's Fish Collection No. 5700, 体長 396 mm) には背鰭第 1–10 棘後方に皮弁の存在が視認できるが、この図からは背鰭第 11 棘後方の皮弁は明瞭に視認できる大きさでは描かれていない。Randall and Heemstra (1991) のモ

Table 1. Counts and measurements of *Epinephelus miliaris* from Miyako-jima island, Okinawa Prefecture, Japan.

KUN-P 66426	
Counts	
Dorsal-fin rays	XI, 16
Anal-fin rays	III, 8
Pectoral-fin rays	17
Pelvic-fin rays	I, 5
Lateral line scales	49
Longitudinal scale series	91
Gill rakers (upper + lower)	8 + 15
Standard length (SL; mm)	263.1
Measurements (%SL)	
Head length	41.2
Snout length	11.0
Body depth	34.1
Body width	18.6
Orbit diameter	7.6
Interorbital width	7.3
Suborbital depth	4.3
Upper width	16.2
Caudal peduncle depth	11.6
Caudal peduncle length	19.1
Pre-dorsal-fin length	37.6
Pre-anal-fin length	68.5
Pre-pelvic-fin length	41.5
Dorsal-fin base length	60.7
1st dorsal-fin spine length	7.2
2nd dorsal-fin spine length	15.6
3rd dorsal-fin spine length	17.9
4th dorsal-fin spine length	17.8
5th dorsal-fin spine length	16.2
6th dorsal-fin spine length	15.0
7th dorsal-fin spine length	13.6
8th dorsal-fin spine length	12.1
9th dorsal-fin spine length	11.2
10th dorsal-fin spine length	10.5
11th dorsal-fin spine length	10.6
Longest dorsal-fin ray length	14.9
Anal-fin base length	15.9
1st anal-fin spine length	4.1
2nd anal-fin spine length	9.5
3rd anal-fin spine length	10.9
Longest anal-fin ray length	17.7
Caudal-fin length	24.8
Pectoral-fin length	23.8
Pelvic-spine length	11.5
Pelvic-fin length	20.2

ザンビーク産の体長 300 mm の個体のスケッチ (fig. 107) では背鰭と臀鰭の皮弁は図示されておらず、モザンビーク産の体長 430 mm の個体 (plate XVIII B. RUSI 21169) は写真の解像度が低く、背鰭の小さい皮弁は確認することはできなかった。Heemstra and Randall (1993) には Randall and Heemstra (1991) で使用された体長 300 mm の個体とともに、体長 28 mm の個体のスケッチが示されているが、この個体にも背鰭と臀鰭ともに皮弁は確認されなかった。中村ほか (2020) の釣獲時に撮影された個体 (KAUM-I. 131314, 体長 340.6 mm) の写真 (fig. 1A) においては背鰭第 1–11 棘および臀鰭第 1–2 棘先端部後方に白い皮弁が確認された。ハウセキハタモドキの背鰭棘における白い皮弁は、益田ほか (1975) において言及されていること、Katayama (1978) のスケッチや中村ほか (2020) の写真からも確認されたことから、ハウセキハタモドキの標徴となり得る形質であると考えられる。また、従来の文献においては言及されていなかった臀鰭第 1–2 棘先端部後方にも白く小さい皮弁があることが確認された。

謝 辞

本稿の執筆に際して、宮古島「海星丸」船長の仲里孝氏には操船と標本の採集、横井徳陽氏 (大和郡山市) と横井 暖氏 (近畿大学農学部) には本個体の運搬、神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士には文献の提供にご協力をいただいた。また、いおワールドかごしま水族

館の中村潤平氏には文献の提供と分布記録に関する有益なご助言を賜った。Ichthy 担当編集委員の中村潤平氏と匿名の査読者には、原稿の改訂にあたって、適切なご助言を頂いた。上記の方々に深く感謝申し上げる。

引用文献

- Cabanban, A. S. and Y. J. Sadovy de Mitcheson. 2011. *Epinephelus miliaris* (Valenciennes 1830), pp. 194–195. In Craig, M. T., Y. J. Sadovy de Mitcheson and P. C. Heemstra (eds.) Groupers of the world. A field and market guide. NISC (Pty) Ltd., Grahamstown.
- Heemstra, P. C. and J. E. Randall. 1993. FAO species catalogue. Vol. 16. Groupers of the world (family Serranidae, subfamily Epinephelinae). An annotated and illustrated catalogue of the grouper, rockcod, hind, coral grouper, and lyretail species known to date. FAO, Rome. viii + 382 pp. + xxxi pls.
- Katayama, M. 1978. Serranid fishes of the Okinawa Islands (IV). UO, 29: 1–12.
- 環境省. 2017. 環境省版海洋生物レッドリストの公表について. [URL](#) (27 Dec. 2024)
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 19: 26–43. [URL](#)
- 中村潤平・立原一憲・福地伊芙映・本村浩之. 2020. 八重山諸島西表島から得られた絶滅危惧魚類ハウセキハタモドキ. Nature of Kagoshima, 46: 499–502. [URL](#)
- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. Indo-Pacific Fishes, 20: 1–332, pls. 1–41.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 752–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.